必須問題集Ⅱ（2019）訂正表

下記の通り、本書に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

薬理

頁	問番号	訂正箇所	内容
8	（19）	選択肢4	血漿タンパク質との結合の解離促進 → 代謝誘導
9		解答	4 → 3
		解説	下記解説に差し替え ワルファリンの作用本体のS-ワルファリンはCYP2C9で、グリベンクラミドはCYP2C9、CYP3A4で代謝されるため、お互いに代謝阻害が起き、出血しやすくなったり、低血糖をきたしたりすることが報告されている。
66	（7）	設問	葉酸代謝を阻害することにより、抗マラリア作用を示すのはどれか。 → ヘム重合阻害作用や食胞の機能阻害により、抗マラリア作用を示すと考えられているのはどれか。
		解説	下記解説に差し替え マラリアにはキニーネやアトバコン・プログアニル配合剤、メフロキンが用いられる。マラリア原虫は宿主の赤血球中のヘモグロビンを取り込み、食胞で分解し、アミノ酸の供給源として利用する。この時、ヘムは原虫に対して有害なため、重合させて、ヘモゾインとすることで無毒化する。カイニン酸とサントニンは回虫の駆除薬。メトロニダゾールは、DNA二重鎖切断により抗赤痢アメーバ作用と抗トリコモナス作用を示す。

薬剤

頁	問番号	訂正箇所	内容
80	（8）	選択肢3	H^+/有機アニオン交換輸送体（OAT） → 有機アニオン輸送体（OAT）
82	（16）	選択肢	選択肢4、5を差し替え 4 心臓　　5 腸
83		解答	5 → 3
		解説	下記解説に差し替え 単位体積当たりの血流が大きな組織ほど、分布が速い。速い臓器は腎臓、肝臓、心臓、消化管で、遅い臓器は脂肪、筋肉、皮膚である。
89	（39）	解答	2 → 1
90	（42）	選択肢	下記選択肢に差し替え 1 シメチジン　　2 エリスロマイシン 3 イトラコナゾール　　4 シプロフロキサシン 5 カルバマゼピン
91		解説	下記解説に差し替え 正答以外は、主にCYP3A4による代謝を阻害する薬物であり、自己誘導は起こさない。

（2019.08.06）